

投稿マニュアル

投稿の手順は別紙「投稿の流れ」を参照の上、期限を厳守ください

・原稿作成

1. 原稿は横書き一段とし、パソコンまたはワープロ(40字40ないし36行)、もしくは手書き(400字詰め原稿用紙)とします。パソコン、ワープロの場合は、本文、参考文献、脚注などの文章部分はWordあるいは一太郎で、図、表などは別建て(Excelが望ましい)にしてください。(PDFファイルでの提出はできません。補助ファイルとしてお送りいただくのはかまいません)原稿はEmailにて担当者(図書・紀要委員会、山藤三陽印刷)までお送りください。文中で特殊な指定をしたい場合は、赤字で指定し、メールでご説明ください。
2. 原稿作成のポイントとフォントについて 本文は10.5ポイント。参考文献は10ポイント。図表の中の文字は9ポイント、注や出典は8ポイント、とします。(脚注の文字ポイントは下の14.で書かれているようにしていただければ、文字ポイントを操作する必要はありません)文章のフォントはMS明朝(英語、数字はTimes New Roman)とします。章、節などのタイトル・図表タイトルはMSゴシックとします。
3. 原稿枚数には、本文・図・表・文献リスト・脚注等の総てが含まれます。
4. 表紙は別建てにしてください。記入していただく内容は、(最終ページに見本あり)
 - ① 日本語タイトル(英文の場合は英語タイトル)
 - ② 英語タイトル(英文の場合は不要)
 - ③ 氏名(英語表記も)
 - ④ 肩書(正確な肩書を記入してください。名誉教授は「北海道大学名誉教授」と記入してください)
 - ⑤ 要旨(日本語論文:500字前後、英語論文:100語から200語。多少のオーバーは構わない)
 - ⑥ キーワード(5個) *要旨、キーワードはHUSCAPへの掲載のみに使用します。
5. 論文以外の原稿は、その項目(<研究ノート><資料紹介>など)を上記表紙タイトルの左上部に、表示してください。
6. 本文目次は通常はつけませんが継続物の2回目以降では、前号までの目次としてつけても良いです。
7. 章・節・項・目のナンバリングは、原則
章=I II III, 節=1. 2. 3., 項=1.1 1.2 1.3 (あるいは(1) (2) (3))
とってください。

8. 句読点

- ①文章の句読点は(.)や(、)でなく、(。)と(,)を使用する。
- ②数式や引用欧文等の後に使用するときには(.)とする。
- ③表題に句点は付けない。
- ④見出し・小見出しの後には、句読点は付けない。

9. イタリックは、原稿作成時にイタリックで書いてください。

10. 本文中で少し小さい文字を用いたいときはその部分を赤字にし、ポイントを下げた記入してください。

11. 数式がはいる論文は必ず締め切り 1 カ月前に山藤三陽印刷にお知らせください。ソフトの種類により対応が異なります。現在 LATEX 方式には対応しておりません。

(Word で数式エディターを使ってください)

12. 外国の機関名で通常和文表記が用いられている場合は、和文で書き、カッコ内に英文および略称を入れてください。ただし、一般的な和文表記がない場合は英語表記とし、略称のある場合はカッコ内に示す。2 度目以降は略称のみの表記とする。

<例> ・和文表記があるときは農業開発公社 (Agriculture Development Board : ADB)。

・和文表記がないときは Agriculture Development Board (ADB) (逆も可)。

2 度目以降「農業開発公社」あるいは ADB。

13. 図、表

- ①文中の図、表を挿入したい部分に赤で図○、表○と入れてください。
- ②引用図を用いるとき、写真製版にそのまま利用できる原図があれば、原稿提出時に添付してください。(本、雑誌の場合は山藤三陽印刷と連絡を取ってください)
- ③図や表は必ず本文原稿とは別にし、原稿の本文・参考文献の後ろにまとめてください。(ファイルは PDF ではなく**原典のソフト**で提出下さい)
- ④図、表それぞれに通し番号をつけ、題をつける。(当紀要では「図表」と表示しませんので注意して下さい)

<例> 表 1 ... , 図 1 ...

⑤出典がある場合は図、表の下に明記してください。注意書きがある場合は出典の下に入れてください。

<例> 出典 : ...

注 1) ... , 注 2) ...

14. 脚注

①本文に付ける脚注番号は上付、片カッコとする。

<例> word の場合は参考資料→脚注の挿入 (ページの最後) ¹⁾

片カッコができない場合は1あるいは(1)でもけっこうです。

②脚注番号は章ごとに分けて、通し番号とする。

15. 引用文献

本文中に他の文献から引用した場合、脚注か、当該箇所の末尾に、引用文献の著者名と刊行年、頁を表記し、参考文献に列記する。

<例> ・ ...²⁾。 脚注とする
・ ... (豊田[2001b], pp. 12-15)。

16. 参考文献

順番はアルファベット順か五十音順にすることが望ましい。

<記述例>

単行本 日本語文献 石沢芳郎[2003]「ブッシュ政権の再選」『産経研シリーズ』No. 69, 産経研協会。

田原奈津子[1998]『イタリア経済の展開』 日本経済評論社。

外国語文献 Sukardi Rinakit[1998] *The Indonesian Military after the New Order*, Copenhagen : NIAS.

単行本所収論文 日本語文献 外山謙一[1997]「管理システムの現状と課題」 川口 雅編『現代経済システム』 福岡大学出版会。

外国語文献 Marciano, A. [2004] “The Historical and Philosophical Foundations of New Political Economy”, *The Elgar Companion to Economics and Philosophy*, Davis, J. B., et. al., eds., Cheltenham : Edward Elgar.

雑誌論文 日本語文献 青木昌彦[2003]「比較制度分析の可能性—転換期にきた日本経済をどう考えるか」『経済セミナー』 No. 580, pp. 34-48.

外国語文献 Elliott, G. [1999] “Efficient Tests for a Unit Root When the Initial Observation is Drawn from its Unconditional Distribution”, *International Economic Review*, Vol. 40, pp. 767-783.

学位論文 日本語文献 高橋 一朗[2004] 「金融市場における投資家行動」 博士学位論文 (北海道大学)。

外国語文献 Fraser, N. [2004] “Stable International Environmental Agreements”, Doctor Thesis, Hokkaido University.

新聞等 日本語 『毎日新聞』, 2005.6.8。

片山 亘[2005]「京都議定書における排出権取引制度のデザイン」
<http://www.econ.hokudai.ac.jp/> 2013.15。

外国語 New York Times, Sept. 20, 1999.

17. 原稿の頁づけの順は、本文、参考文献、表・図と全部通しで番号を打ってください。

・校正

²⁾ 豊田[2001a], pp. 55-70。

1. 執筆者の校正は3校までです(投稿が遅れた、**初校での修正箇所が多かった**、などのケースでは2校で終了する場合があります)。
2. 校正には朱筆を使い、校正記号は一般的なものを使用してください。
3. 校正によって文字の増減が生じる時は、まず同じ行、次に同じパラグラフ、と最小の範囲で調整するようにし、行の増減は極力避けてください。
4. 脚注番号を打った箇所が頁をこえてしまう変更や、注の文の増減になるようなこと、および、訂正による増減が頁の増減につながるようなことは、お控え下さい。

・その他

1. 各校のゲラはお手元に留めず、毎回新しいゲラと共に**山藤三陽印刷**に必ずお返しください。
2. 完成時、投稿者には、抜き刷りをお渡しします。**50部までとします**ので**希望冊数を山藤三陽印刷までお知らせください(部数は10部単位です)**。それ以上の部数を希望される時は、再校ゲラ返還時まで**山藤三陽印刷**にお申し出ください。ただし、この分の費用は自己負担です(研究院内のメンバーは、御自分の研究費や科研費から支出することができます)。印刷が終わってからのご希望にはそえませんので、くれぐれもご注意ください。**刊行されましたら図書室に抜き刷りを取りにいらしてください(1ヶ月以内。それをすぎましたら処分する可能性があります)**送付の必要があるときは事前に**山藤三陽印刷**にご連絡ください(住所を添えて)。送料は着払いとなります。
3. 本誌に掲載した論文等は、**HUSCAP(北海道大学学術成果コレクション)**に収録されます。
4. **投稿された原稿は出稿前の修正は行いませんので、各位が書式をお守りください。**

付：表紙頁は図書室と山藤三陽印刷にお送りください。表紙まわり作成とHUSCAP掲載時に必要となります。(送らなければ紀要が刊行できません。HUSCAPに要旨やキーワードが掲載されません。両者からは請求しませんのでお気を付けください)

2021.3.1 改訂

※メール宛先一覧

mitsuzono@econ.hokudai.ac.jp (図書・紀要委員会)
economic-studies@sando-sanyo.co.jp (山藤三陽印刷)
eco@lib.hokudai.ac.jp (図書室)

*学術専門職堤さんは紀要には携わっておりません。お問い合わせなどは「図書・紀要委員会」かゲラが出てからは「山藤三陽印刷」にお願いいたします。

日本語タイトル（副題は2行目に）

Title (English)

氏名 Name (English)

肩書 (your title) 日本語のみ (正確に=correctly)
(例：北海道大学大学院経済学研究院教授，
北海道大学大学院経済学院博士後期課程1年，
北海道大学名誉教授，北海道情報大学情報経営学部)

要旨 abstract (500字前後) (English 100~200word)

キーワード keyword (5個：five)